日本山岳会
越後支部報

第 31 号
令和３年６月15日
発　行　公益社団法人日本山岳会越後支部
発行者　桐生 恒治
新潟県見附市学校町１－９－19
TEL･FAX 0258－62－0148
広報委員長　佐藤 高晴

私の一枚

飯豊連峰 遥か彼方

飯豊連峰の前衛峰である二王子岳から飯豊の主稜・門内岳へ。45年前、このコースを辿ったときに、視界不良、暴風、藪漕ぎととても苦い思いをしたことが脳裏をよぎったが、2019年５月３日から５日にかけて敢行した再挑戦では、終日、快晴に恵まれ、素晴らしい眺望を楽しむことができ、念願のリベンジを果たすことができた。振り向けば、二王子岳からの長い尾根筋が見え、行く手には遠く二ツ峰が‥‥。その稜線上のはるかかなたには門内岳が大きくそびえ、まるで我々を待っているかのようだった。

撮影者　石山 政雄

「越後衆の鈍と根」ふたたび
全国と越後の山岳古道調査に総力を

副支部長・越後山岳古道プロジェクトチームリーダー　**後藤　正弘**

日本山岳会の１２０周年（２０２５年）記念事業として、全国山岳古道調査を実施することが決定され、会員及び支部・同好会に推薦の依頼がありました。全国から２０６古道が推薦され、一次選定では59古道が選定されている。今後も順次選定され調査を実施、２０２５年に日本山岳会が選ぶ「日本の山岳古道１２０選（仮称）」として発表を目指している。

一方、日本山岳会越後支部は２０２６年（令和８年）に創立80周年を迎える。80周年記念事業として、越後山岳古道調査を取り組み「越後の山岳古道と峠80選（仮称）」として「越後山岳」第14号にまとめることを決定した。

かつて越後支部は、創立20周年記念事業として「越後の国境踏査」という偉業を成し遂げている。この成果は「越後山岳」第６号（昭和44年８月発行）にまとめられた。その序文には、君健男新潟県副知事（のちに新潟県知事）、松方三郎日本山岳会会長、斎藤平七前新潟県山岳協会副会長（日本山岳会越後支部第二代支部長）、深田久弥日本山岳会常務理事など、重鎮が名を連ねその偉業を讃えている。藤島玄初代支部長の時代である。

ひとくちに県境踏査と言っても長大な山岳地帯であり、未知の領域も多かった。「…こんな途方もないことを思いつくのが、越後衆の〝鈍〟なら、それを本気になって実行したのは越後衆の〝根〟だろう。全長６８７キロと言えば、東京から岡山の手前までの距離である。が、山は距離だけではない。上り下りがある。それも道があればいいが、全コースの５分の４は未踏の領域だという…」と深田久弥氏は、越後の岳人をこのように評した。

あれから時代は流れ、支部会員の高齢化が進行している。日本山岳会は会員拡大を最重点課題として活動を展開し、越後支部も真剣に取り組んできた。組織激変の時代である。また「越後の国境踏査」を共に取り組んだ新潟県山岳協会も同様な状況にある。

このような時代であればこそ先人の心意気と実行力に学び、全国と越後の山岳古道調査を組織の総力で取り組み、組織の活性化を図りたいと思う。

峠シリーズ

島の峠・小佐渡の千原越（ちはらごえ）

藤井 与嗣明

佐渡の山は、単純に分水嶺となる主稜線の山を越える事から、峠でなく越の名で呼んでいる。それは小佐渡の山にあっても同じで、千原越は両津湾側の河崎集落千原地区から、前浜と呼ぶ越後側の野浦や東強清水（みず）、東立島の各集落を結ぶルートで、交易や生活物資を運ぶ越路（こえじ）でありました。また、この越路は米山（よねやま）や古峰山（こうがらさん）への信仰のルートでもあり、平成13年に林道米山線が千原越へ、平成26年には林道小佐渡2号線が開通、東端の姫崎から主稜線に沿って南の経塚山まで連なり、車で容易に行けるようになりました。

この千原越は平成2年に歩いてから、今どのようになっているか、その確認もあってこの3月19日と24日に歩いてみました。製炭や焚き木への活用は20年、25年周期での伐採となるが、そうした活用が無い事は山にとって風通しも悪く、不健康な状態と言えるでしょう。そのため立枯れによる倒木からルートを塞（ふさ）いで、潜（くぐ）ったり、ブッシュを廻り込んだりとアルバイトが激しい。

この越路には「地蔵菩薩」、「大日如来」の石仏や「南無阿弥陀仏」の石塔があって興味が持たれました。「地蔵菩薩」は、越路を歩く人の安全を祈願するものでしょう。また古峰山の近くに「南無阿弥陀仏」の石塔があって、平成2年には二ツに割れて倒壊し、その下に縦に

右ハ米山道
左ハ野浦
立嶋道　と刻まれた道標が確認できた。

その石塔は割れた状態で建てられて、「陀」の文字の右側に「明賢」の文字が苔（こけ）むした中に確認できた。これは千原地区の上人堂の開基となる西賢、賢海上人につながる「施主あるいは願主」と考えたい。越えの「大日如来」は「昔から牛を大事にし、息災祈願のために奉られた」ものであり、米山の参道となる林道沿いにも「大日如来」（金剛界、胎蔵界の）二体があって、米山さんの「鍵取り」を務めた下久知集落田辺繁春さん（1937～2020）から、昔は家にも牛がいて春耕（田植）を終えると、秋の稲刈り前まで米山近くに放牧したと伺った事が有りました。また、小佐渡の山には「牛タタラ」、「馬タタラ」の地名がある。これは牛馬の放牧を言い、大佐渡に比べて小佐渡の山峰は小さく、その山域も狭い事から放牧は過密となり、踏み付けや掘り起こしから降雨により土砂は流失、砂利層の基盤が露出して山肌はザレ状のただれた「タタラ現象」から来るもので、野浦集落越のお年寄からは大隅山（おおずみやま）は「芝生場（しばば）の山、砂利浜だ」と聞く機会がありました。

牛馬の放牧を終え山林の利活用もなく、ルートには境界の確認か立木へのペイント跡が残されていた。なお、越の「大日如来」は金剛界の逆智拳印（ぎゃくちけんいん）である。

千原越のルートとなる古峰山近くには「南無阿彌陀仏」の割れた石塔、その下には道標
（平成２年（1990）４月30日）

千原越の大日如来（平成２年（1990）４月30日）

山岳古道調査

越後山岳古道プロジェクトリーダー
後藤 正弘

1　山岳古道調査全国展開へ

全国から206古道が推薦され、第一次選定では59古道が選定された。その内越後支部関連7古道（資料）となっている。今後も選定が進められ「日本の山岳古道120選」としてまとめられる予定だ。具体的な考え方は下記のように示されている。

(1)古道選定の方法と優先順位

・古道は120を一度に決めず50～60を決める。

・団体や個人から複数の推薦があった古道はそのことを考慮する。

・選定条件は、当初の条件にとらわれずフレキシブルに考える。

・文化庁の「歴史の道」に選ばれている古道も取り上げることもある。

・実際に調査できない場所も成果物に何らかの形で載せたい。

(2)古道調査のスケジュール

・4月末までに第一次の50～60の古道を選定、各支部に1箇所毎に調査依頼する。

・5月くらいにリモートで本部プロジェクトチーム（以下PT）と支部担当者でミーティングして、調査方法を決める。

・5月～6月頃に、パイロット調査を行い、その結果をテンプレート公開する。

⑶実施調査と結果の公表について

・各支部とも１つの古道について、１回目調査が終了してから次の古道調査を依頼するように進めたい。各支部の意向により同時調査もある。

・再調査の必要性がある場合、調査を何度でも行う。

・時代により古道ルートが複数ある場合、最も利用されたルート、有名なルートを重視。

・５月～６月頃に、リモートで最も適した調査方法を考えていく。

・５月～６月頃に、パイロット調査を行い、その結果をテンプレートとして公開する。

・調査結果は本部で整合がとれるよう調整、アレンジして逐次全支部に公表する。

・調査結果や進行状況は、リアルタイムでウェブサイトにアップし、必要であれば動画コンテンツも活用していく。

⑷支部との連絡・調整方法

・支部のない県の古道は、原則として近隣支部に依頼する。できない場合は本部ＰＴで人材を派遣する。

・二つの支部にまたがる古道は、関係支部と本部ＰＴで調整する。

推薦古道と第１次選定

No.	推薦古道名	都道府県		推薦者		第1次（4月26日）
1	六左衛門古道	新潟県	新潟県	支部推薦	朝比奈信男	
2	八十里越	福島県	新潟県	支部推薦	井口　光利	○
3	会津街道（諏訪峠）	福島県	新潟県	支部推薦	佐久間雅義	○
4	米沢街道・十三峠	福島県	新潟県	支部推薦	渡邊　忠治	○
5	三山がけ（金北山～檀持山～金剛山）	新潟県	新潟県	支部推薦	藤井与嗣明	
6	桑取道	新潟県	新潟県	個人推薦	松尾　智弘	
7	枝折峠（銀の道）	新潟県	新潟県	個人推薦	吉田　理一	○
8	裸山乗越（六十里越）	福島県	新潟県	個人推薦	皆川　陽一	○
9	出羽街道	新潟県	山形県	個人推薦	遠山　　實	○
10	万治峠	新潟県	新潟県	個人推薦	佐久間雅義	○
11	上州から越後への道（三国峠）	群馬県	新潟県	群馬支部		○
12	塩の道・千国街道３本の道（小谷村部分）	新潟県	長野県	本部PT	パイロット候補	○

２　越後山岳古道調査の進め方

全国山岳古道調査と並行して、越後支部独自に支部創立80周年事業として「越後山岳古道調査」を実施する。

上越・中越・下越・佐渡地域のすべての古道をリストアップして、「越後山岳古道調査データベース作成要領」を基本に調査を実施するが、多くの会員の協力が不可欠である。興味ある山岳古道や近隣地域の山岳古道など、現地調査が無理なら文献や机上調査も大歓迎、是非参加いただきたい。

「越後の山旅」（藤島玄著）、「越後佐渡の峠を歩く」（羽賀一蔵著）、「嶝峠（とうとうげ）」（森沢賢次著）や支部報「峠シリーズ」に寄稿されている多くの会員など、先輩の皆様からの助言もいただきたい。また「古道巡礼」（高桑信一著）やローカル情報なども参考にして、越後らしいテーマを探っていけたらと考えている。

コンセプトとしては、

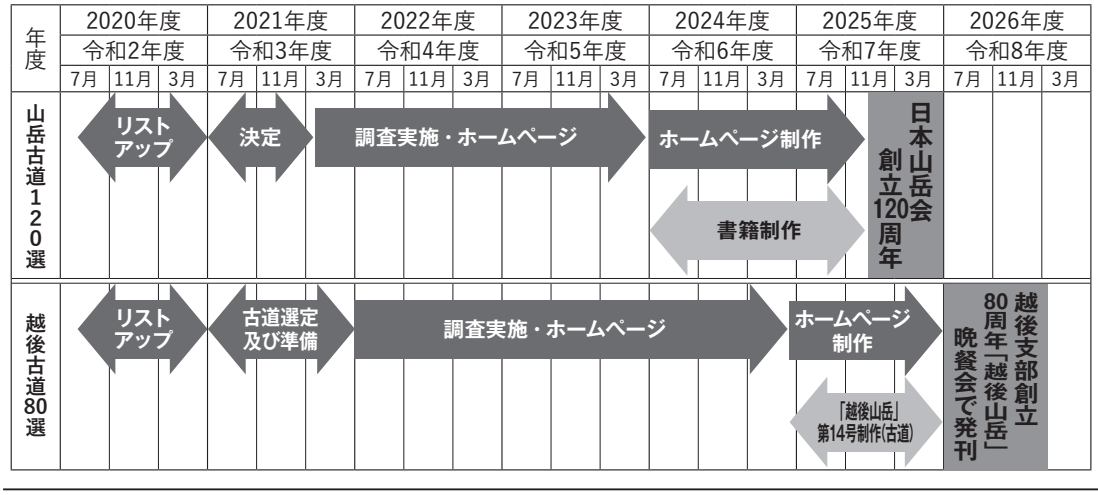
①かつて利用された山岳古道は、時代と共に急激に荒廃が進んでいる。滅びゆく古道を後世に残すことが重要になっている。

②中山間地集落は、過疎と高齢化が進み活力が失われている。少しでも地域の活性化に寄与することができればと考える。

③山岳古道調査を実施し、成果物を新たな山の楽しみ方として提案する。

④さまざまな調査活動をとおして支部活動の活性化を図る等。

【山岳古道調査スケジュール】



海の谷と海の川を繋ぐ道
六左衛門道

朝比奈 信男

古道には塩の道に代表されるように、地域の生活を支える交易の葉脈（支脈）であり、道を介して別の側面に利用されたとしても道を作り、維持しようとした人々の歴史である。当時は社会的制約の中にあり、人や物資の往来の困難さを現代人が想像するのは簡単ではない。だからこそ何故なぜと問いながら、かつての道の痕跡を歩き、また探索する事に魅了されるのかもしれない。一方、古道のもつ地理的要素もある。六左衛門道の古道としての魅力に、この地理的要素は欠かせない。それが海谷。古道は、新潟県の早川地区砂場から、〈越後の上高地〉とも呼ばれる通称海谷を残雪期には尾根を繋ぎ、また無雪期には源頭まで遡行し、頸城山塊の一角を占める金山～雨飾山の稜線より長野県側の大海川に沿い、向かった小谷温泉までの先人等の足跡を行く。一見バリエーションルートにも見えるが、昔は生活道の一部であった。そして歩む者に厳しい顔と美しい顔で海谷の自然は出迎える。

六左衛門道は園田六左衛門が１８３９年（天保10年）より23年間、一人砂場から小谷温泉を目指して切り開いた道である。翁が築いた道は生活道となり、また製炭業を起こし地域に貢献するも、やがて時代の推移とともに道は廃れていった。岩の崩落、地滑りで埋まった箇所もあるが海谷に面した山の斜面には、石を敷いた水平道がひっそりと残っている。この道をどれ位の人が歩いたのか。ただ翁の偉業を偲びながらも六左衛門道から海谷の存在は切り離せない。翁本人が海谷に魅入られたのかもしれない。それが六左衛門道の魅力なのか。

八十里越

井口 光利

治承４年（１１８０年）高倉宮衣仁王（たかくらのみやもちひとおう）が会津から越後に逃れたとの伝説に始まる、旧下田村吉ヶ平（現三条市）から福島県南会津郡入叶津を結ぶ街道である。

古道（江戸時代に使用し、幕末長岡藩一行が越えた旧八十里越）、中道（明治14年～27年）、新道（明治28年）と変遷し、現在は新道のみが残っている。

八十里越は六十里越と並んで、古くから越後と会津を結ぶ生活の道であり、歴史の道である。八十里越の名称は、道は難を極めたため一里を平地の十里に例えたとされており、峠越えの道がどれ程険しかったかが窺がえる。

越後からは塩・魚類等を、会津からは繊維原料・人足等、また文化交流の道として明治末期まで往来した。

「八十里、腰抜け武士の越す峠」と、自分の姿を自嘲した長岡藩家老河井継之助。戊辰戦争の折、新政府軍の戦いで敗れ、負傷した継之助は、担架に乗せられ、木の根峠（八十里峠）を越えた史実は今も語り継がれている。（距離32㎞・休憩を含まず約10時間の行程である）

佐渡の山岳古道
金北山（きんぼくさん）～檀特山（だんとくさん）～金剛山（こんごうせん）の三山参り

藤井 与嗣明

金北山、檀特山、金剛山を「佐渡三山」として、男子三歳或は五歳になると親は親戚の人を頼んで子どもと一緒に三山を参る。これは子どもの健（すこやか）なる成長を願い、成人にあってはいつでも三山参り（或は三山駆け）ができた。

「御山（おやま）（金北山）、檀特山、米山薬師（金剛山）三山かけます佐渡三宮」といわれ、明治44年10月17日付佐渡新聞に「御山檀特山、米山薬師かけてうれしや佐渡参宮」とあって、いずれも御山（金北山）、檀特山、金剛山への「三山駆け」の喜びが唄われてきた。これは中世の修験道入峯（にゅうぶ）の名残（なごり）と言われ、近世に入ると民間信仰として島民に広まり、昭和のはじめ頃まで盛んに行われていた。

三山参りは吉野、熊野、大峯にならったもので、三山形式或は三尊形式として熊野三山が各地に移されてきた。昔は修験の徒（山伏）の多くが、熊野三山へ修行に行けるものではなかった。このため佐渡の三山駆けをやることで、同じ修行ができるとの考えからである。なお、これらの修行に熊野修験者も佐渡へこられ、平成19年7月に那智山青岸渡寺の修行僧が、佐渡へ来られた御札が大佐渡の山々に置かれてあった。

なお、支那事変（１９３７年）以後中国大陸における戦争が激しくなると、佐渡山岳会や連合青年団による金北山々頂での、「武運長久祈願祭」が行われているが、このおりも三山参りが実施されている。

また、金北山は修験に関係が無いとの説を唱える人もいますが、男子七歳にして「初山参り」と称し、その証しとしてナギ（石楠花）を手折って持ち帰り戸口に飾った。戦後これらの風習は行われてはいないが、ナギは熊野の象徴である。

これらの「三山参りや初山参り（或は初山駆け）」は、地区や集落によってそれぞれ違ったと言われ、同ルートは草花が美しいことと共に、幾万幾千の島民を生み育んできた山々であり、これらを残す（知る）ことは必要と考える。

米沢街道十三峠の大里峠

渡邊 忠次

下越地域と山形県置賜地域を結ぶ「米沢街道」に十三の峠があることから「十三峠」と呼ばれています。１５２１年に県境の大里峠が開かれてから約３６０年にわたり軍事、物流、交易等重要な街道として活用されてきました。

英国の女性旅行家イザベラ・バードや良寛、原敬、十返舎一九、伊達政宗、伊能忠敬など多くの著名人が往来した歴史があり、現在は新潟、山形両県で「越後米沢街

道・十三峠交流会」を設立し、峠の保存や活用に取り組んでいます。

新潟県側の「大里峠」は大蛇伝説で有名です。

会津街道(越後街道)諏訪峠

佐久間 雅義

会津街道は、新発田から会津若松に至る92㎞に及び多くの峠を経ています。

江戸時代の初期に会津藩により整備され、新潟湊との商品交易路であり又参勤交代の殿様街道でもありました。最大の難所が諏訪峠（５１６ｍ）で寛文年間（１６６１～１６７３）に石畳の道に改修されました。後に十返舎一九、吉田松陰、山県有朋などの歴史上の人物がこの峠を通りました。現在では一里塚や、追分道標などが残されております。

支部長よりお知らせ

桐生 恒治

１．高頭仁兵衛翁寿像修復募金経過報告

昨年12月「２０２０ 写真でみる高頭祭のあゆみ」を刊行しましたが、弥彦山大平園地に座位する高頭仁兵衛翁寿像碑の経年劣化で亀裂や剥離が激しく、寿像碑修復委員会を立ち上げて募金活動を進めてまいりました。５月21日現在までの寄付金額は、１４３万３千円に達し目標額１００万円を大きく上回り、ご厚志をいただいた支部会員、本部や全国各支部関係者、関係諸団体などの方々に深く感謝を申し上げます。寄付金使用用途は、本体修復工事の他に寿像碑設置場所の周辺整備や芝生緑地復旧と案内看板新設等の追加工事を行うことにしました。すでに地主である弥彦神社への工事届や、国定公園管理者である新潟県の関連部門にも申請書を提出し許可を得ており、現地施工を、過去に一連の工事担当している弥彦村大門建設（株）に依頼しました。今年７月25日の第64回高頭祭は、修復竣工記念を兼ねて開催する予定で、リニューアルした寿像碑や緑地整備された大平園地の景観などを、多くの方々に訪れて見ていただきたいと考えております。高頭仁兵衛翁が、明治時代の半ばの少年期に弥彦山登山で感化を受け、登山文化と探検的登山を実践するため日本山岳会を創設した偉業とその功績を、広く全国へ情報発信する継承として、今後も大切に保存活動に努めて行きたいと思います。

２．日本山岳会支部事業委員会２０２１年度特別事業補助金について

越後支部より申請していた「越後ＹＯＵＴＨ育成３ヶ年計画（２年目）」の事業が、３月21日の本部審査会で補助金決定されました。今年度支給額は10万円で、主にＹＯＵＴＨメンバー育成や新入会員勧誘加入のセミナー開催、未来の子ども達に向けた登山教室などの事業資金として活用する予定です。

３．一般財団法人新潟県職員互助会令和３年度公益事業（地域振興助成）助成について

越後支部が申請していた「弥彦・国上エリアの持続可能な利用を促進するプロジェクト」の事業が、５月18日に採択されたと連絡がありました。助成額は１００万円で、弥彦山及び国上山の周辺整備作業、環境保全啓発資料作成等を含めた事業経費とする予定です。三条地域振興局との共催事業であり、県央広域団体とも連携して進める予定です。越後支部の取り組み体制は、小山副支部長がリーダーとなり全体計画をまとめて活動して行くこととしました。

新会員になって

伊藤 香代子

今年、縁あって入会させて頂きました。私と山の出会いは、20代後半に職場の先輩から連れて行って貰った白馬岳でした。その後は山にすっかり魅せられて魚沼の山々を歩き始めました。地元の山岳会に入会しましたが、御世話になった方々が山から離れ始めていた頃、生活習慣になっている城山で根津さんと知り合いました。

越後支部の皆さんとの個人山行に誘って頂き、経験豊富で知識の有る皆さんとの山行きは安心感があり、居心地良く楽しかったです。

山頂に立って達成感で満足していた私ですが、知識の無さを痛感し多くの事を学びたいと思っています。年を重ねる毎に体力の衰えを感じていますが、何時までも自然に浸りながら山を楽しみたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

松野　敬

みなさま、はじめまして。この度は、歴史ある日本山岳会越後支部に加入させていただき、大変光栄に思っております。

現在、私は佐渡島在住ですが、実は出身が佐渡ではありません。東京生まれの東京育ちなのですが、縁あって、８年程前に佐渡へ引っ越して来ました。移り住んでからの数年は、時間があっという間に過ぎてしまいましたが、せっかく佐渡に来たのだから、その豊かな自然に触れたいとは、常日頃から思っていました。そして昨年、初めて金北山を登り、登山の素晴らしさ、楽しさに取り憑かれてしまいました。それからは、度々佐渡の山々に通うようになり、いずれ島外の山にも登ってみたいと思うようになりました。しかし、移住者ですので、県内にほとんど知り合いがいなく、山仲間を増やしたいと思ったのが、入会のきっかけです。あいにくコロナ禍のため、すぐにあちこち出歩くわけにはいきませんが、この難局が落ち着いた暁には、ぜひ越後支部のみなさまとご一緒させていただきたいと思っております。なにぶん初心者ですが、ぜひお声掛けいただければ、ありがたく思います。どうぞ、よろしくお願いします。

事務局からのお知らせ

令和３・４年度支部役員体制について

５月22日支部総会にて、次の新役員が決定し承認されました。

支部長　桐生恒治（再・見附市）
副支部長・事業委員長兼務　小山一夫（再・新潟市）
副支部長・山岳古道ＰＪＴチーフリーダー　後藤正弘（再・上越市）
事務局長・総務委員長兼務　小泉良夫（再・新潟市）
理事・ＹＯＵＴＨ委員長　玉木大二朗（再・新潟市）
理事・山行委員長　渡辺茂（新・新潟市）
理事・広報委員長　佐藤高晴（新・新潟市）
理事・自然保護委員長　鶴本修一（再・糸魚川市）
理事・県山協委員長兼山岳古道ＰＪＴサブリーダー　松井潤次（再・小千谷市）
理事・ＹＯＵＴＨ副委員長　成海修（再・新潟市）
理事・事業副委員長　佐藤レイ子（再・新潟市）
理事・事業副委員長　立入清（再・上越市）
理事・事業副委員長　井春文（再・南魚沼市）
理事・事業副委員長　五十嵐恵美子（新・喜多方市）
理事・山行副委員長　廣井博行（新・柏崎市）
理事・山行副委員長　佐竹信幸（再・会津若松市）
理事・広報副委員長　多田政雄（再・新潟市）
理事・広報副委員長　春日良樹（新・妙高市）
理事・広報副委員長　諏訪恵一（再・長岡市）
理事・広報副委員長　石山政雄（再・胎内市）
理事・自然保護副委員長　小野寺昭彦（新・長岡市）
理事・山岳古道ＰＪＴ　佐久間雅義（再・新発田市）
監事　佐藤博（再・新潟市）
監事　井口光利（再・見附市）
顧問　遠藤家之進正和（再・新潟市）
顧問　阿部信一（再・新潟市）

専門委員については、現在依頼中です。

今回の改選で退任された理事は、鈴木勝利様、遠山實様、森沢堅次様です。長い間支部業務にご尽力いただき感謝申し上げます。

●支部会員動向（２０２０年12月12日以降）

・退会者

山口　寿證（５８３６）　1月20日
白島　達彦（１４４１４）　1月31日
髙橋　初代（１４８５６）　3月31日
井上　隆夫（７９８６）　3月31日
小林　重弘（１２２５３）　3月31日
髙橋　正英（１２２５７）　3月31日

・新入会員

松野　敬（１６７２３）　4月20日
江口　健（１６７３６）　4月20日

・準会員

伊藤香代子（Ａ０３２）　2月20日

●支部会員総数（２０２１年５月18日現在）

１７１名

新広報委員長より

佐藤　高晴

佐久間雅義前委員長から、支部報とホームページを引き継ぐことになりました。今号は、前広報委員会で編集してくださり、次号から、新広報委員会で編集させて頂きます。広報副委員長は、支部長のお取りはからいで、今まで支部でいろいろの分野で活躍されてきた方々にお引き受け頂くことになりました。大変心強く思っています。また、前委員長からは女性陣の活躍の場がなかったとの反省も伺いました。今まであまり支部の仕事をしたことがない方も、もし、広報委員に興味を持たれた方はどうぞ連絡をお願いいたします。支部ではワクチン普及を基に、今年度からは感染対策を施した上で例年行っていた活動を徐々に再開していく予定です。さらに、新たな活動も予定されております。広報委員会の役割としては、支部報或いはホームページを通じて、事前の行事の周知と事後の報告を行うことにより、支部内の懇親と安全登山・自然保護などの啓蒙活動を行うことかと思いますが、このような広報委員会の役割はますます重要になってくると思っています。広報委員会としては、各委員が自分の色をどこかで発揮して、共同してこの役割を果たして行ければと考えています。どうぞ、ご支援お願いします。

訂正

第30号の２頁１段目後ろから２行目
誤：【陸街道】→　正：【北陸街道】

編集後記

委員長を仰せつかって４年になりました。コロナ禍では都会を避け、〝山にはコロナは居ない〟と島巡りを楽しみにしています。佐渡へは昨年来通い、２１０㎞の外周サイクリングも走りました。島には島の文化があり、その独自性が個性になって居ます。今後の古道プロジェクトも越後らしさの個性を発揮出来るように、お手伝いして参ります。

広報の仕事を助けて頂いた皆様に感謝申し上げます。越後山岳古道踏査でお目にかかりましょう。

（佐久間　雅義）